

水質保全を考慮した施設の適正管理

平地農業地域

福岡県柳川市における活動組織の例

- 当委員会は、平成26年度から水質保全のため、EM（有機微生物群）を用いたダンゴづくり及びエリア内の水路への定期的な投入・散布を行っている。
- この活動により、参加者が活動開始以前は少数であったものが、平成27年は地域で定期的に行うまでに増加し、地域コミュニティの活性化が図られた。
- この取組みにより、エリア内水路の水質浄化が期待される。

【地区概要】

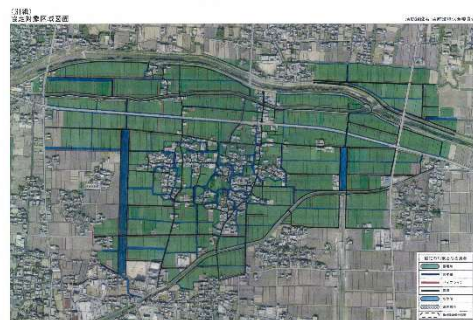
- ・取組面積109ha（田104ha、畑5ha）
- ・資源量 開水路13.2km、
パイプライン16.5km、
農道22.5km
- ・主な構成員 自治会、農業者、
公民館等

・活動内容

農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、農業者が減少し、地域コミュニティが希薄化している。
- また、地域内に大小様々な水路が張り巡っており、農地を含めた維持管理が課題となっている。



取組内容

- 平成20年度から農地・水保全管理事業に取組む。
- 平成26年度に多面的機能支払に移行後、水質保全を考慮した施設の適正管理を計画に位置付け、本格的にEMダンゴづくりに取組む。



取組の効果

- EMダンゴ投入・散布に参加する地域住民が増え、地域コミュニティの活性化が図られた。
- この取組みにより、エリア内水路の水質浄化が期待される。

